

軽商用バンで商機

金沢 キスモが新型EV発売

ネット通販増で 小口配送に特化

インターネット通販の普及を背景に、北陸の自動車販売店が小口配送に適した軽商用車に商機を見いだしている。自動車販売・整備のキスモ(金沢市)は18日までに、市街地など短距離の配送に特化した軽商用EV(電気自動車)を導入。ガソリン価格が高騰する中、まちなかを走る配送会社や宅配サービスを始めると小売業向けに新たな選択肢として売り込む。

国土交通省の調査によると、電子商取引(EC)の急速な拡大によって宅配便の取り扱い個数は近年増加している。2022年度の取り扱い個数は前年度比1・1%増の50億588万個で、20年前の2倍近くに上る。

法人の顧客が多いキスモは、宅配便などの小口配送の需要が高まる中で、騒音が少なくガソリンよりも走行コストが低いEVに目を付けた。

キスモが取り扱うEV「ASF2.0」は、佐川急便(京都市)とEV企画のASF(東京)が共同開発した。佐川急便のドライバー約7千人のアンケート

キスモが取り扱いを始めた軽商用EV
|| 金沢市内

ホンダも10月投入

ホンダは新型商用EV「N-VAN e(エヌバンイー)」を10月に発売する。三菱自動車も「ミニキヤブEV」を昨年発売し、各社が軽商用EVの開発を進めている。

コロナ禍の「巣こもり需要」をきっかけに宅配サービスを始めると、スーパーやドラッグストアなども増えている。石川、富山でスーパー約50店舗を展開する大阪屋ショップ(富山市)は22年9月に「ネットスーパー」を始めた。現在は富山市内と金沢市内を中心にサービスを提供している。

を基に設計され、荷室の大型LEDランプや台車収納スペースなどが特徴という。充電1回当たりの走行距離は243キロ。キスモの林泰三社長は能登半島地震を振り返り、災害時の電源として使えることも企業にとってのメリットだとし「長距離配送はガソリン、まちなかはEVといった使い分けを顧客に提案していきたい」と話した。

北陸経済



独総領事が訪問

在大阪・神戸ドイツ総領事館のメラニー・ザクシン

ガール総領事は18日、ドイツのダイムラーグループの一員である三菱ふそうバス製造(富山市)を訪れた。応対した藤岡佳一郎社長は今年の生

バスの生産ラインを見学するザクシンガール総領事(右)
|| 富山市婦中町

富山・三菱ふそうバス製造 生産「コロナ前80%に」

産状況について「大型バスはコロナ前の80%の水準になり、小型バスはほぼコロナ前に戻ってきた」との認識を示した。

ザクシンガール総領事は大型バスや小型バスの生産ラインを見学。インバウンド(訪日客)でにぎわう現状から大型バスのさらなる供給を求めたのに対し、藤岡社長は「慢性的な運転手不足で事業者が新たなバスを導入しにくい状況だ」と説明した。

三菱ふそうのバスは、三

三菱ふそうトラック・バス(川崎市)の工場でエンジンなどの部品を生産し、100%子会社の三菱ふそうバス製造が富山市婦中町の工場で車体を生産している。

小松の河村商店にPIFで1億円融資
商工中金

商工組合中央金庫金沢支店は18日までに、再生資源回収・卸の河村商店(小松市)に対し、SDGs達成に向けた企業活動を支援する「ポジティブ・インパクト

ト・ファイナンス(PIF)で1億円を融資した。同社は本社工場を新設

能登半島地震で被災した能登の食品企業と、東日本大震災で被害を受けた宮城県の商品が18日までに完成した。宮城県の「食のみやぎ応援団」による能登半島応援企画に石川県食品協会が協力し、能登と仙台のみそを使った牛タン、能登産の岩モズクと宮城産タコを入れた酢の物の2商品を開発。能登食材の発信と被災企業の支援につなげる。

石川県食品協会×宮城

被



自動車産業課題解決
石川県会

石川県自動車工業会、金沢市のANAイー・イン金沢スナを聞き、物価高やなど業界の課題を審議した。功労

26日にIIT補助金活用ヤ

金沢商

金沢商工会議所同会議所会館で、に必要なITツールを開発する。自法について、専門

NTTコミュニ

東証1部
4.4
4.3
3.5
1.8
1.1
1.3
2.3
2.2
3.1
2.1
2.0
5.2
5.9
10.3
3.4
3.2
3.5
2.2
2.4
東証2部
51.5
53.3
51.7
4.8
【石】
23
25
【富】
3
24
富山地放
北日
5
11
富山地放
北日
5
11